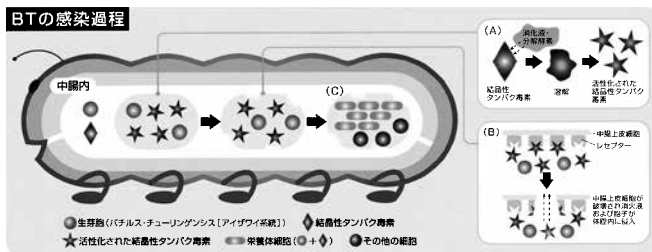


サブリナフロアブル 技術情報

作用機作

サブリナフロアブルはBT剤ですので、チョウ目幼虫に食下されると生芽胞と結晶性タンパク毒素が、中腸内で下記のような殺虫作用を示します。

1. 生芽胞と結晶性タンパク毒素がチョウ目幼虫に食下されます。
2. 中腸内のアルカリ性消化液と分解酵素が働き、結晶性タンパク毒素が活性化されます。(A)
3. 活性化した結晶性タンパク毒素が中腸上皮細胞の受容体（レセプター）に結合し、中腸上皮細胞が壊死し、消化液および孢子が体腔内に侵入します。(幼虫は口腔または中腸の麻痺を起こし摂食を停止します) (B)
4. 体腔内に侵入した孢子が栄養体細胞となって増殖し、同時に他の細菌による2次感染も起こります。(幼虫は衰弱あるいは敗血症により死亡する) (C)
5. 菌体内に孢子と殺虫性タンパクが形成され、チョウ目幼虫の体外に放出されます。



■ 使用時の注意



汚れについて

サブリナフロアブルは汚れが少ないよう製剤化されています。



サブリナフロアブル 500倍



1剤 500倍

サブリナフロアブル技術情報

サブリナフロアブルの薬効試験成績

アワノメイガに対する効果 (体系処理の例：とうもろこし)

試験年月：平成21年6月
 試験場所：埼玉県深谷市一般圃場
 発生状況：少発生
 作物：とうもろこし
 処理日：6月16日、27日

最終散布11日後のとうもろこし果実被害数

試験区 No.	薬剤散布時期		調査果数	被害果数	被害果率 (%)
	雄穂抽出期 (6/16)	雌穂抽出期 (6/27)			
1	サブリナフロアブル 1000 倍	サブリナフロアブル 1000 倍	24	0	0
2	サブリナフロアブル 1000 倍	H 剤 1000 倍	25	0	0
3	H 剤 1000 倍	サブリナフロアブル 1000 倍	25	1	4
4	H 剤 1000 倍	H 剤 1000 倍	20	1	5

各種 BT 剤がコナガ卵、ふ化直後の幼虫に与える影響

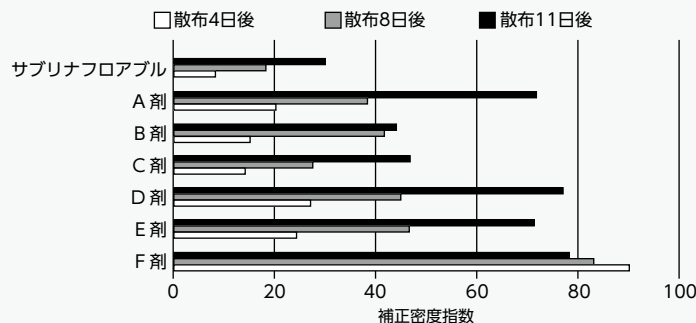
供試薬剤名	希釈倍数	未ふ化卵率 (%)	ふ化直後の幼虫死亡率 (%)
サブリナフロアブル	1000 倍	0.0	72.0
A 剤	1000 倍	0.0	0.0
B 剤	1000 倍	0.0	0.0
C 剤	1000 倍	0.0	0.0
D 剤	1000 倍	0.0	0.0
E 剤	2000 倍	2.0	0.0
F 剤	1000 倍	0.0	0.0
無処理 (水)	—	0.0	0.0

サブリナフロアブルは他のBT剤と同様、コナガに対する殺卵効果がないものの、ふ化直後の幼虫に対しては殺虫効果あり。

試験方法:1葉あたり18~23個産卵されたキャベツ葉を各薬液に30秒間浸漬し、処理96時間後に卵および孵化幼虫の状態を観察した。(1区3反復で実施)

(2016年 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場)

キャベツ圃場での各種 BT 剤のコナガに対する効果



サブリナフロアブルは他のBT剤と比べて、散布11日後まで補正密度指数が低く推移。

供試品種:金系201号

試験方法:定植28日後(本葉7~8葉期)に各薬液を100L/10a相当量散布した。散布4日、8日、11日後に各区10株について幼虫及び蛹の寄生虫数を調査した。(1区3反復で実施)

(2016年 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場)